

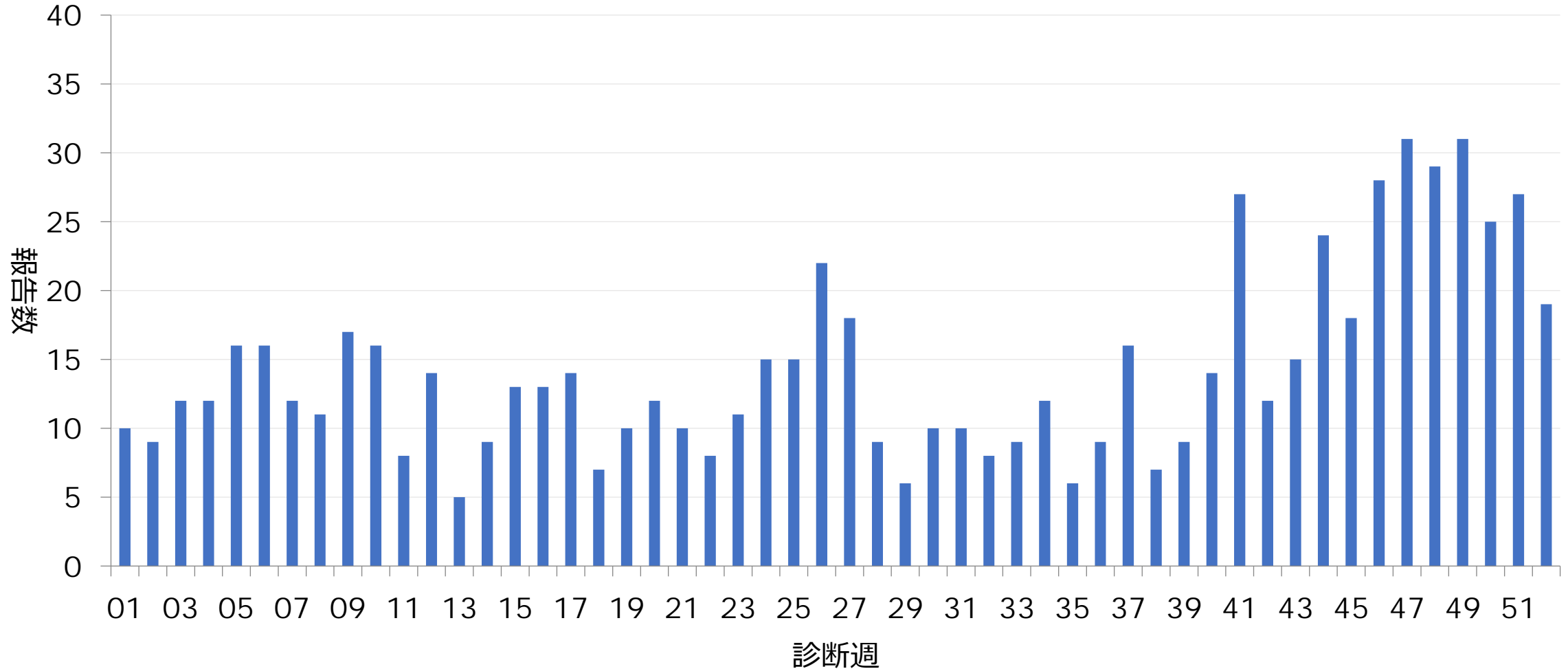
2021年第1週から第52週^(*)までに NESIDに報告された百日咳患者のまとめ

2021年第52週週報データ集計時点

国立感染症研究所 実地疫学研究センター
同感染症疫学センター
同細菌第二部

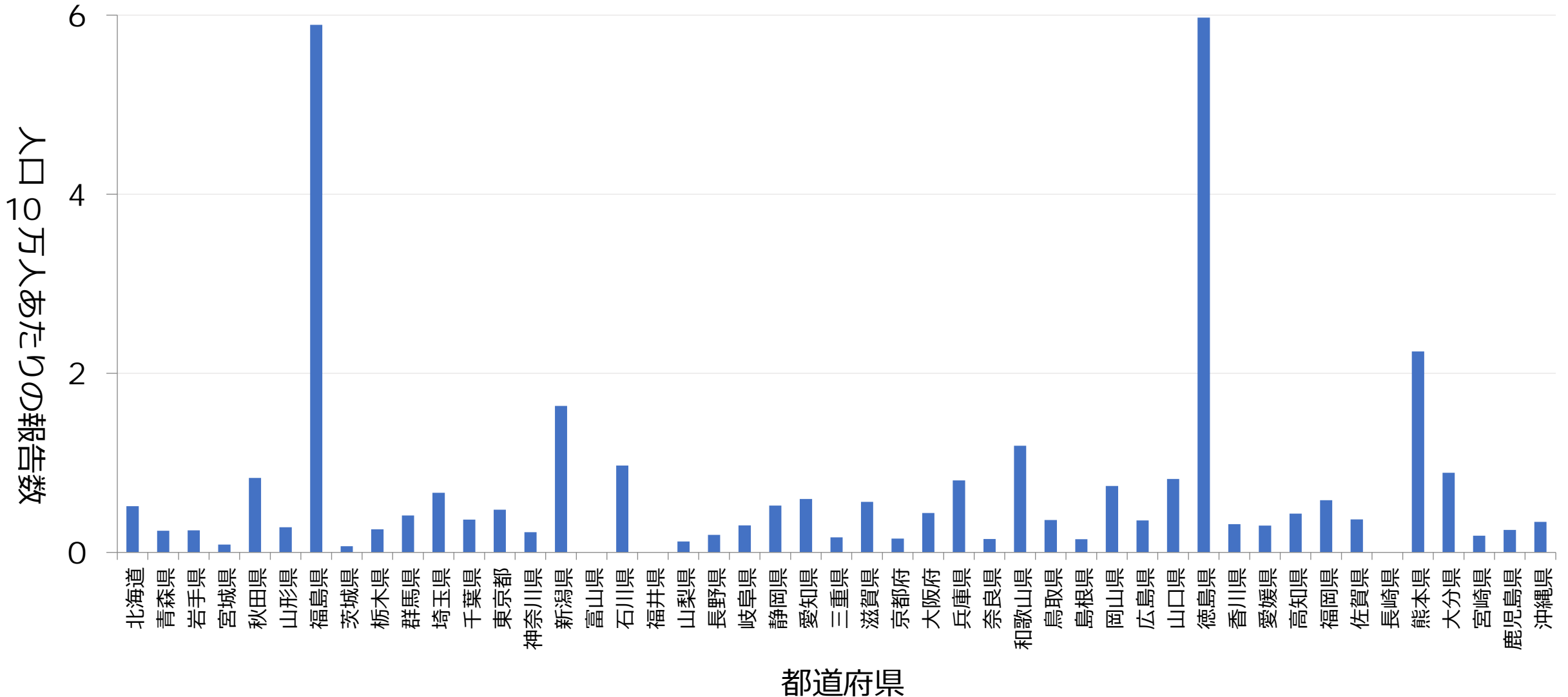
^(*)第1週～第52週(2021年1月4日～2022年1月2日)

診断週別全百日咳患者報告数 (2021年第1週～第52週)(n=746)



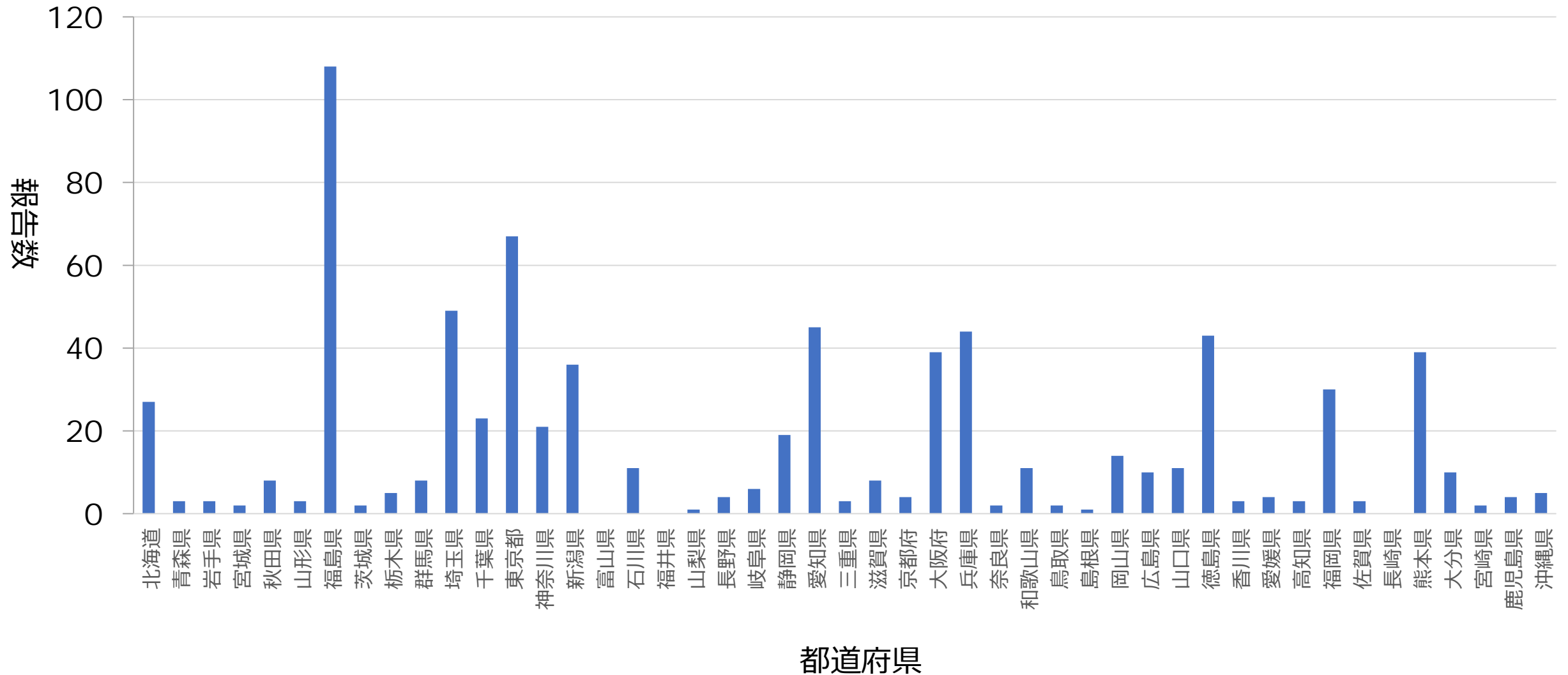
週の平均報告数: 14例(範囲: 5~31例)

人口10万人あたりの都道府県別百日咳 報告患者数(2021年第1週～第52週)(n=746)

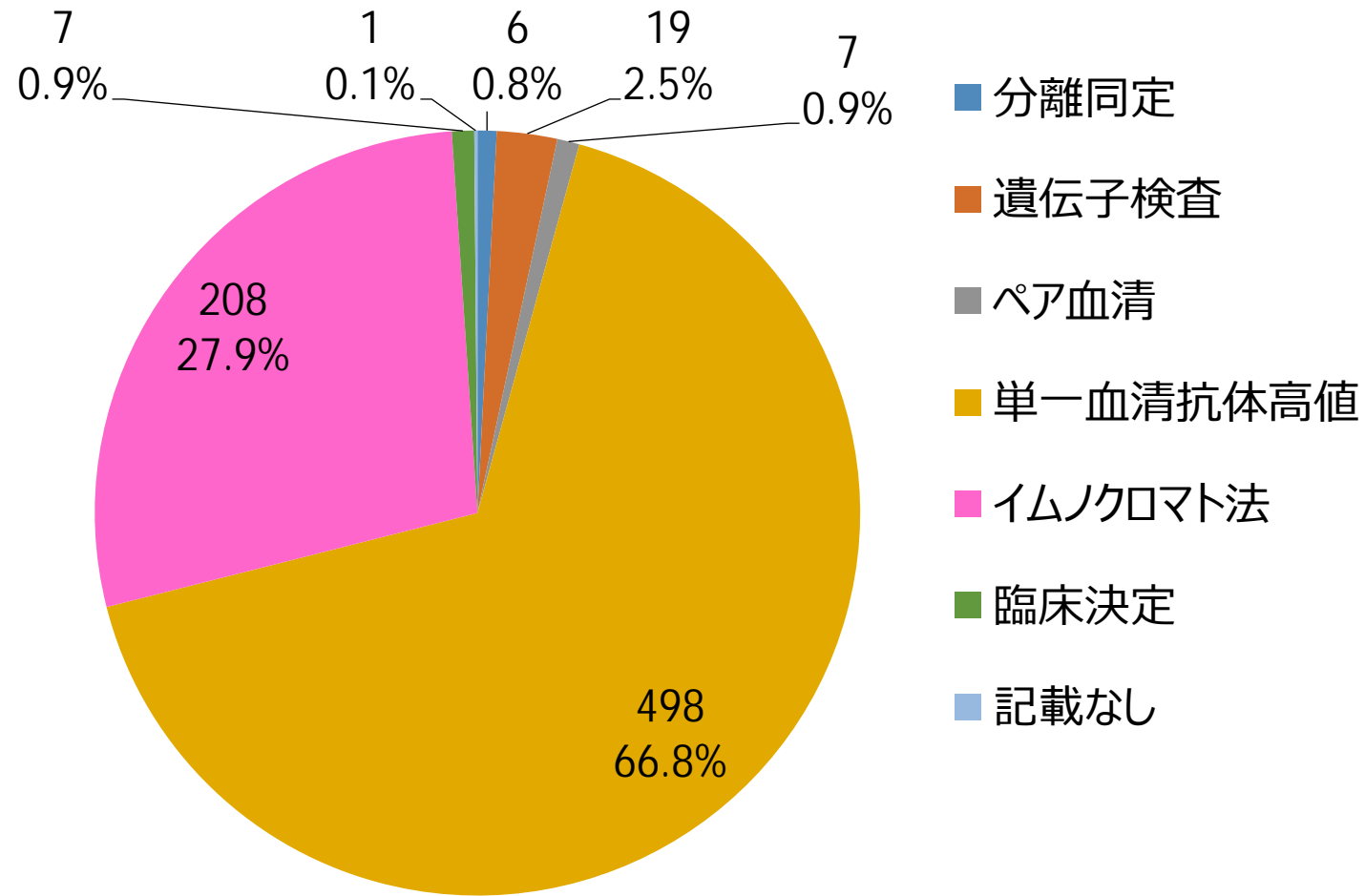


総務省統計局 令和2年(2020年)国勢調査(不詳補完値による人口)に基づき算出

都道府県別百日咳報告患者数 (2021年第1週～第52週)(n=746)



百日咳報告患者の診断方法 (2021年第1週～第52週)(n=746)

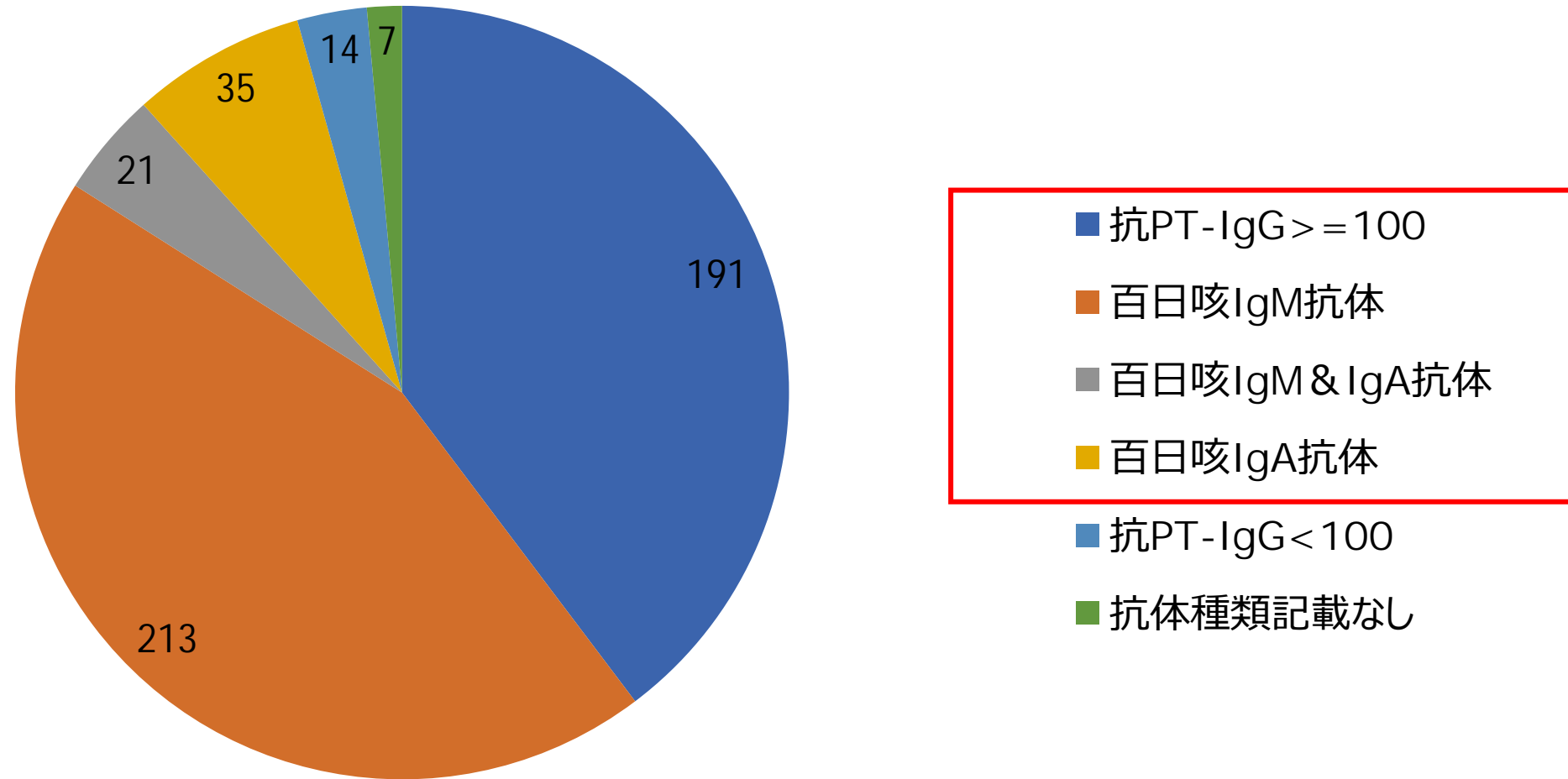


複数の検査法の記載がある場合、分離同定→遺伝子検査→ペア血清→単一血清抗体価高値の順に一つの診断法を決定

例) 分離同定と単一血清抗体価高値の記載がある場合には、分離同定を診断法とする

注) イムノクロマト法は百日咳菌以外の*Bordetella*属細菌に交差するため、今回の更新情報ではイムノクロマト法以外の診断方法を優先した

「単一血清の抗体価高値」を診断根拠に届けられた百日咳報告患者 (n=481) の検査結果内訳

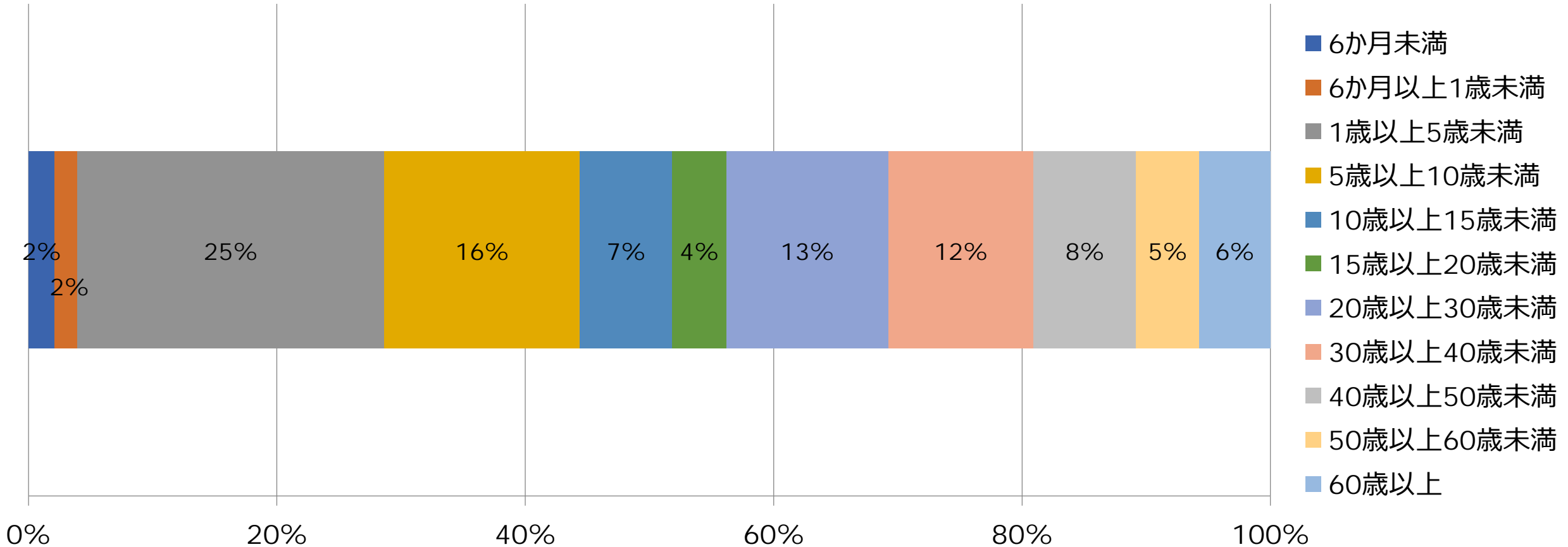


報告の約96%が届出ガイドライン*の診断基準を満たしていた (赤い四角の枠内)

(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン (第二版)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/610-idsc/10875-pertussis-guideline-211228.html>

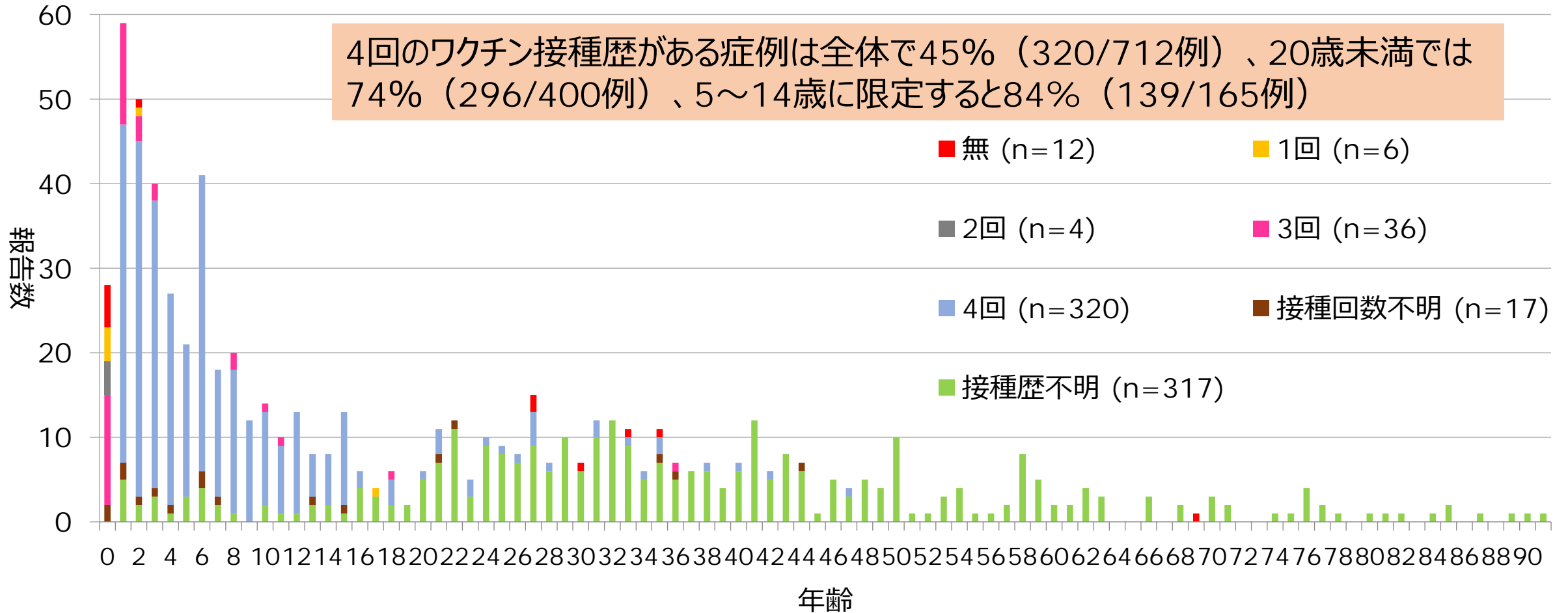
届出ガイドラインの診断基準を満たした 百日咳患者症例^(*) (n=716)の各年齢群の割合 (2021年第1週～第52週)



(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（第二版）に則った症例のみを抽出

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/610-idsc/10875-pertussis-guideline-211228.html>

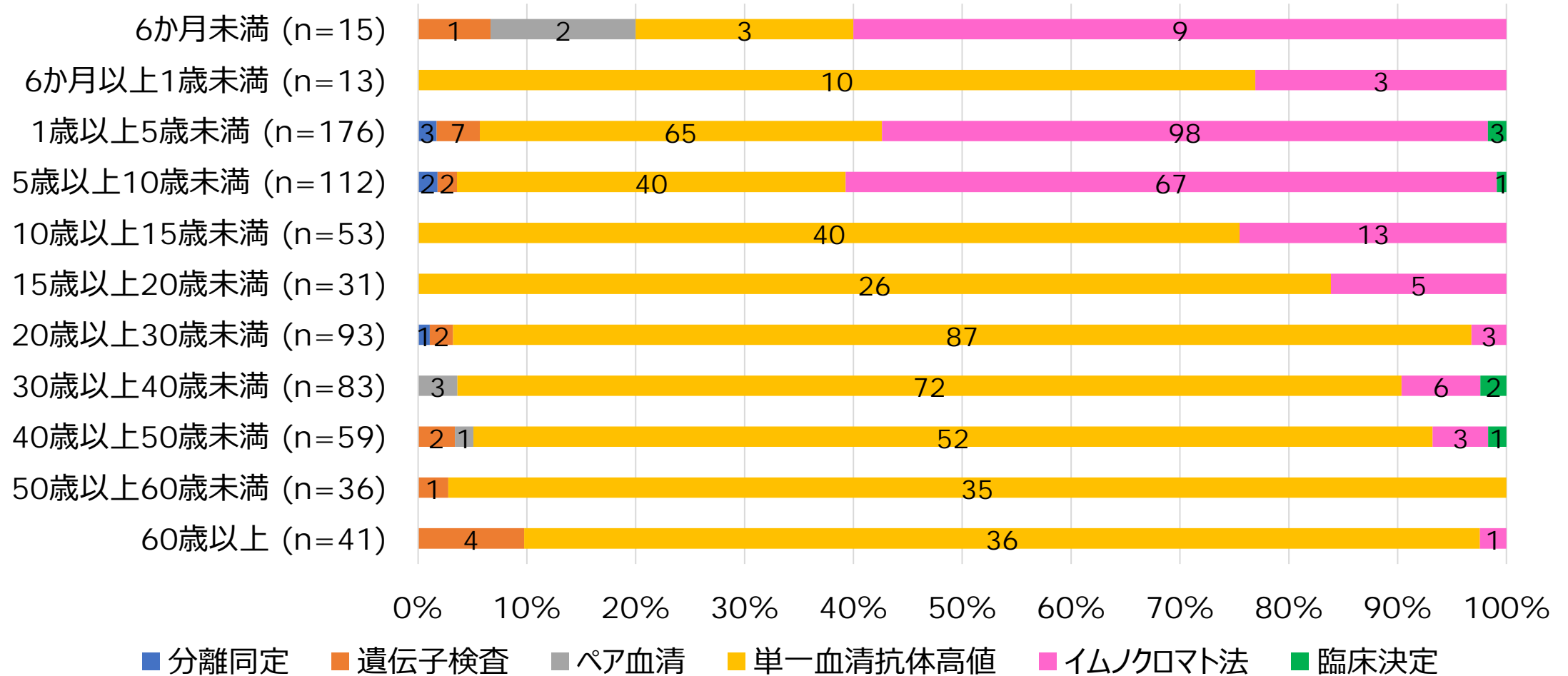
届出ガイドラインの診断基準を満たした百日咳患者症例^(*) (n=712)の年齢分布 (2021年第1週～第52週)



(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン (第二版) に則った症例のみを抽出

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/610-idsc/10875-pertussis-guideline-211228.html>

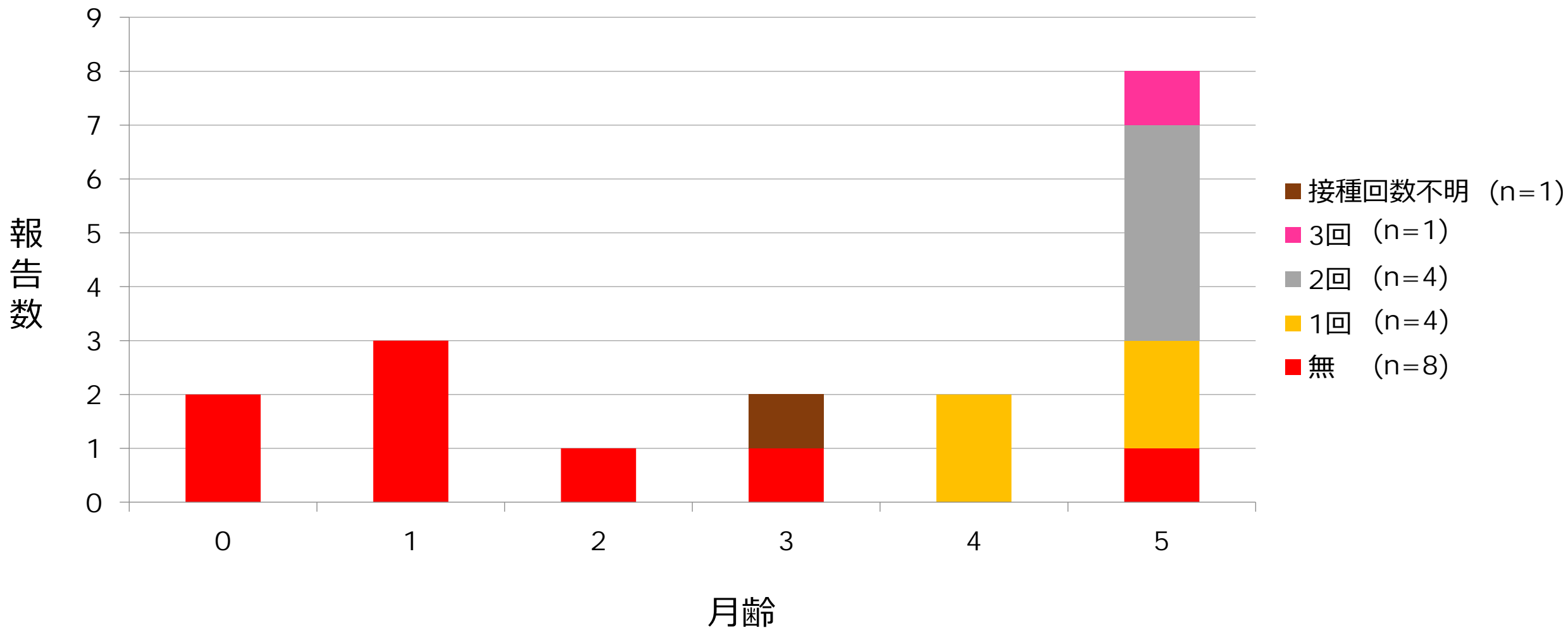
届出ガイドラインの診断基準を満たした百日咳症例(*)の年齢群別百日咳診断検査法の割合 (2021年第1週～第52週) (n=712)



(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（第二版）に則った症例のみを抽出

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/610-idsc/10875-pertussis-guideline-211228.html>

6か月未満症例の月齢別報告数(ワクチン接種歴別) (2021年第1週～第52週) (n=18)



6か月未満症例の感染経路 (2021年第1週～第52週) (n=18)

推定感染経路	N (重複あり)	%
父親	1	6
同胞	8	44
祖父母	1	6
家族内その他	1	6

家族内その他の内訳：親戚 1

上記以外：家族内不明 2(11%)、不明 8(44%)

6か月未満症例の臨床症状・臨床経過 (2021年第1週～第52週) (n=18)

●NESID記載の症状

症状	N (重複あり)	%
無呼吸発作	1	6
チアノーゼ	0	0
肺炎	0	0
痙攣	0	0
脳症	0	0
上記以外で報告数が多い上位3症状		
持続する咳	16	89
夜間の咳き込み	10	56
スタッカート	4	22

今回のまとめ

◆2021年第4四半期時点での百日咳報告患者についてまとめた

- 全報告百日咳患者数 746例
- 届出ガイドラインの診断基準を満たした百日咳患者数 712例
 - うち4回のDPTワクチン接種歴有の割合 45% (5~15歳未満に限定すると84%)

◆6か月未満、1歳をピークとした1~5歳未満、6歳をピークにした5~15歳未満、成人では20~30代に患者集積あり

◆10歳未満ではイムノクロマト法による診断、10歳以上では単一血清抗体価による診断の割合が高く、2020年と比べて全体的に遺伝子検査の割合が減少

【参考】百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン(第二版)

- 感染研のホームページをご覧ください

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/610-idsc/10875-pertussis-guideline-211228.html>

- 届出ガイドラインは保健所に届け出る基準を示しており、臨床診断を目的としたガイドラインではない
⇒統一した基準で全国の百日咳の疫学情報を収集する目的
- 届出ガイドラインを満たさない百日咳症例(臨床診断例)もあり得る(治療や感染拡大防止策は同じ)